

大洋州における中等教育試験制度の変遷

－ PSSC の廃止に着目して－

奥田久春

要 旨

本稿では、太平洋諸国のうち7か国で実施されていた地域共通の後期中等教育資格試験（PSSC）が2013年に廃止され、各国が独自の試験を実施するようになった転換点に着目しつつ、そこにはどのような背景があり、どのように変容してきたのかを明らかにする。

この背景については、ニュージーランド大学入学（NZUE）試験からの脱却、PSSCの質的改善、各国による独自の試験の導入という流れから捉えることができる。

1985年にニュージーランドがForm6でのNZUE試験を廃止したことにより、ニュージーランド等の大学に進学を希望する太平洋島嶼国の生徒が同試験を受験できなくなった。これが原因となって地域共通のPSSCが開発されることに繋がっていった。次にPSSCは対象国のForm6（Year12）段階で実施されるようになったが、各国は中等教育の整備を進めるとともに、PSSCも内部評価を導入することで質的向上が図られ、PSSC実施のための研修も行われた。こうした中、2013年以降にPSSCに替わる試験が各国内で作成されるようになったが、各国での試験教科の種類や筆記試験の内容からは、PSSCとの連続性と独自性が見られる。これらからPSSCの廃止は、地域共通試験からの脱却ではなく、PSSCの継承であり、その上での各国独自のローカル化が図られていると考えることができる。

はじめに

本研究の目的は、太平洋諸国のうち7か国（キリバス、サモア、ソロモン諸島、ツバル、トンガ、ナウル、バヌアツ）で実施されていた地域（regional）共通の後期中等教育資格試験（Pacific Senior Secondary Certificate：PSSC）が2013年に廃止され、各国が独自の試験を実施するようになった転換点に着目しつつ、それまでにどのような背景があり、またどのように変容してきたのかを明らかにしていくことである。

太平洋には、オーストラリアやニュージーランド以外に、14ほどの島嶼国があり、面積、人口が小規模なだけでなく社会・経済において開発途上であるなど、特徴として、脆弱性、隔絶性、矮小性が挙げられる。また植民地だった歴史から、独立後も様々な面において旧宗主国の影響を受けている。教育分野においても、かつての宗主国の敷いた学校制度を土台としていたり、教育内容が用いられたりすることもあった。こうしたポストコロニアルな状況からの脱却や独立志向の反面、教育制度の構築のために開発援助に依存せざるを得ない実情もある。これらから中心国に対する周縁に位置づけられることが多い。

とりわけ、経済規模が小さく労働市場が限られていることや国内の高等教育への接続が限られているため、海外への移住や留学を視野に入れた教育が必要となることも無視できない。太平洋の小島嶼国では独自の国立大学を有する国（サモア、ソロモン諸島、フィジーなど）はあるものの、それ以外

にはフィジーに本部のある広域の南太平洋大学のサテライトキャンパス、ニュージーランドやオーストラリアの大学が主な進学先となる。これら広域や海外の大学入学資格を得るための教育をどのように提供していくのかも課題である。

中等教育になれば小学校と比べて高度な教育内容に加え、バナキュラー言語や地域に根ざすような身近な内容ではなく、多少なりとも世界的な知識内容を扱うことが増えていく。後期中等教育で海外の大学への接続を考えるならば、国際的に通用性のある教育内容とその修了資格が必要となってこよう。しかしながら、島嶼国では、そうしたカリキュラムを開発し試験を作成、実施していくことが財政難や人的資源の不足などで困難な状況と言われてきた (Crossley, M. and Holmes, K., 1999, p.1, Bray, 1998, p.474)。

こうしたことから、島嶼国や開発途上国では先進的な国の資格試験が用いられることもある。例えば英国のケンブリッジ試験など外部の試験を用いることも少なくない。

その反面、外部試験では各国に根差した教育内容と関連性が薄い。これに対して、少なくとも地域にとって適切な (relevant) 試験内容にするために広域の国々による共通試験が行われることがある。これは、広域ながらも教育のローカル化の流れと捉えることができよう。今日でも西アフリカの WAEC (The West African Examinations Council) やカリブ海地域の CXC (Caribbean Examinations Council) は地域共通の資格試験として行われている。南太平洋においては、まさに本稿で取り上げる PSSC が該当する。

では、こうした地域機関による共通の資格試験、特に後期中等教育修了資格について、太平洋諸国では、なぜ PSSC が廃止されてしまい、そしてどのように変容したのだろうか。また、教育のローカル化という視点ではどのように捉えればいいのか。

このような地域の中等教育試験制度についての研究は主に Bray (1998) が論じているが、総じて少なく、最近の動向である PSSC の廃止についての研究は管見の限り見当たらない。

本稿では、PSSC が実施されるようになった背景、その後の PSSC の質的改善の方向性について先行研究をもとに辿りながら、各国が独自の試験を実施するように至った背景を探っていく。また現在の各国の試験の特徴と PSSC との連続性と各国の独自性について分析しつつ、その変遷の過程と意義をローカル化の観点から考察していく。

1. PSSC 参加国の教育制度と PSSC 実施組織

(1) 各国の教育制度

まずは PSSC が実施されていた国の教育制度から PSSC の位置づけを見ていきたい。表 1 に示すように、教育制度は初等教育が 6 年間の国と 8 年間の国 (サモア、ツバル) に分かれる。キリバスを除きいずれも初等教育の卒業時に試験が行われている。また前期中等教育に相当する段階で試験 (Junior Secondary Certificate) が行われていたり (キリバス、ソロモン諸島、ツバル、バヌアツ)、Year11 (Form5) の段階で試験が行われていたりする (キリバス、サモア、ソロモン諸島、ツバル、トンガ)。これらは各国が独自に行っているものである¹。本稿で扱う PSSC は Year12 (Form6) での試験であり、後期中等教育資格となる。このうち、サモアは 5 歳から小学校に入学するため、6 歳から入学する他国と比べて学年と学齢が 1 年ずれる。つまり PSSC は Year13 (Form6 に相当) で受験する。この PSSC が 2013 年以降、各国独自の試験に切り替えられたことになる。またサモアとナウルを除き中等教育は Year13 (Form7) までである (ツバルは 2 校中 1 校のみ)。この学年では大学入学資格のための南太平洋共通の

試験（SPFSC）を受験する。他にも英国のケンブリッジ外部試験を受験したり、南太平洋大学に設置されている大学予科（Foundation Year）にて資格を取得したりすることも可能である。サモアは Year13 までであるものの他国の Year12 と同じ学齢になるため、Form7 としての学年はない。但し大学進学のためにサモア国立大学にも大学予科が設置されており、そこでは他大学への入学資格も得られる。

表 2 は 2012 年等の各国の規模と Year 12 の生徒数を示している²。面積は大小様々で、ソロモン諸島とバヌアツは比較的大きいが、ナウルとツバルは世界第 3、4 番目に小さい。人口はソロモン諸島を除いて人口 30 万人に満たない。全ての中等学校生が Year12 まで進学する訳ではないため各国の進学状況も影響してくるが（例えばサモアとバヌアツ）、総じて Year12 の生徒数も人口に比して少ない。2,000 人を超えるのはサモアとソロモン諸島だけで、キリバス、トンガ、バヌアツは 1,200 人～1,500 人程度、ツバルとナウルは極めて少人数である。各国とも PSSC の受験対象となっていたのはこうした少人数の生徒である。

表 1. 各国の教育段階と試験制度

(2012 年以前)

	Y6	Y7(F1)	Y8(F2)	Y9(F3)	Y10(F4)	Y11(F5)	Y12(F6)	Y13(F7)
キリバス				JSC		KNC	PSSC	SPFSC 等
サモア *		Y8Exam	(Y9)	(Y10)	(Y11)	SSC(Y12)	PSSC(Y13)	
ソロモン	SEE			F3Exam		SISC	PSSC	SPFSC 等
ツバル			NYEE		TJC	TSC	PSSC	SPFSC 等
トンガ	SEE					ToSC	PSSC	TNFSC 等
ナウル	Y6Exam		Y8Exam				PSSC	
バヌアツ **	Y6Exam				JSSC		PSSC	SPFSC 等

網掛けは初等教育段階 * サモアは 5 歳から小学校に入学するため、他国の学齢・学年と一年ずれる。** バヌアツは英語系とフランス語系の教育制度に分かれるため、それぞれの試験制度も両言語で異なる。ここでは英語系を示している。F: Form, JSC: Junior Secondary Certificate, JSSC: Junior Secondary School Certificate, KNC: Kiribati National Certificate, NYEE: National Year Eight Examination, SEE: Secondary Entrance Examination, SISC: Solomon Islands School Certificate, SPFSC: South Pacific Form Seven Certificate, SSC: Samoa School Certificate, TJC: Tuvalu Junior Certificate, TNFSC: Tonga National Form Seven Certificate, ToSC: Tonga School Certificate, TSC: Tuvalu School Certificate, Y: Year
出典: Pongi (2004, p.13) をもとにして各国の教育統計等を参照し筆者作成

表 2. 各国の規模と Year12 (Form6、サモアは Year13) の生徒数

(2012 年)

	面積 (km ²)	人口 (人)	Year12 等の生徒数 (人)	中等学校生徒数 (人)
キリバス	730	106,613	1,367	11,727
サモア	2,830	189,194	2,015	16,360
ソロモン諸島	28,900	551,531	2,083	41,655
ツバル	25.9	10,725	117	439
トンガ	720	104,951	1,426*	14,427*
ナウル	21.1	10,279	48 **	818**
バヌアツ	12,190	247,485	1,273	18,239

出典: 筆者作成 *2013 年、**2008 年

(2) PSSC の実施機関

PSSC は広域の機関によって開発、作成されていた。大洋州には、同地域の島嶼国の発展のための助言や研修を行う地域機関である太平洋共同体 (SPC、旧南太平洋委員会)³ がある。この SPC が 1980 年に教育分野に関する組織として設置したのが南太平洋教育評価委員会 (South Pacific Board for Educational Assessment : SPBEA、現 EQAP) である。

この SPBEA は、太平洋島嶼国の教育分野の発展のための助言や研修を主な役割として設置されたもので、もともと共通試験を開発、実施するような機能は求められてはいなかった (Bray, 1998, p.479)。SPBEA 設立以前の 1971 年に他の地域機関と同様に、共通試験を開発することが検討されたようであるが、各国が独立性を保つために提案が受け入れられることはなかった (Ree, T. and Singh, G., 1998, pp.165-166)。このため中等教育資格については、各国が試験を独自で実施できるように研修などを通じて支援することとしていた。この SPBEA が一転して PSSC を作成し、各国で実施されることになった訳である。

2. PSSC 導入の背景

本来、地域共通試験を作成する役割を持たなかった SPBEA が PSSC を作成し、各国で実施されるようになったのにはどのような背景があったのだろうか。これにはニュージーランドの大学入学資格が影響している。本章では、Livingstone (1985) や Bray (1998) に依拠してその背景を辿っていきたい。

ニュージーランドでは 1985 年まで Form6 (Year12) において大学入学資格 (New Zealand University Entrance : NZUE) 試験が行われていた。これはニュージーランドの生徒だけでなく、南太平洋の国々でも活用されてきた。

NZUE はその名のとおりに大学入学のための試験であるが、当初は中等教育資格も兼ねるものとして実施されていた。しかし Form6 への進学率が高まるにつれて大学に進学しない生徒が増えてきたこともあり、中等教育の内容や評価方法との齟齬が指摘されるようになってきた。そのため 1969 年に別途 Form6 での中等教育資格試験が内部評価 (Internal Assessment) を伴って行われることになり、暫くはこの Form6 試験と NZUE とが併存する状況が続いた。しかし同学年で 2 つの試験という生徒の負担や、Form7 (Year13) で行われていた上位の大学入学・奨学金資格としてのバーサリー (Bursary) 試験が奨励されるようになったことから、Form6 段階では中等教育資格試験のみを行うこととされ、1985 年に NZUE は廃止されることが決定された。なお、NZUE は Form7 (Year13) のバーサリー試験と統合されることとなった。

このことが太平洋の各島嶼国に大きな影響を与えた。先述したように、それまで太平洋島嶼国には Form6 の段階で大学入学資格を得るために NZUE を受験する者が多くいた。Livingstone (1985) によれば、5,500 名の受験者がいたとしている⁴。つまり Form6 での NZUE の廃止はこれら島嶼国の大学進学志願者から試験の機会を奪うことを意味したのである。ニュージーランドは当面、太平洋島嶼国向けに NZUE の存続を検討したものの、自国の教育改革を優先させるため 1988 年を最後に廃止することとした (Bray, 1998, p.479)。

しかし、このことで単に NZUE の代替の試験が島嶼国で必要になったと理解すべきではない。以上の背景を踏まえながらも更に考察するならば、確かに NZUE が廃止されたことで、太平洋島嶼国の生徒は国内で大学入学資格を得ることができなくなったが、むしろこのことは、生徒が Form6 に続き Form7 に進まざるを得なくなったと理解するべきであろう。当時フィジーを除き Form7 まで設けている国はなく (Livingstone, 1985, p.85)、ニュージーランドなどの Form7 に進むためには Form6 の資格が

求められる。つまりニュージーランドの Form6 試験と同等の試験を島嶼国内で行わなければならないとなったということである。NZUE に依存していた各国が、内部評価を伴うような試験を独自に開発・作成、実施することは困難な状況だったことは想像に難くない。それゆえに SPBEA に地域共通の Form6 の試験を開発することが求められたのである。

3. PSSC の改訂と各国の教育改革

PSSC は対象国の Form6 (Year12、サモアでは Year13) で実施されるようになったが、質的に改善されてきた。Macpherson (1993) は PSSC の大きな改訂の一つとして、内部評価の導入を挙げている。Macpherson によれば教員や教育専門家との協議の末、導入されたもので他の国から借用されたものではないとしているが、前章のような PSSC 導入の背景から考えれば、ニュージーランドの Form6 試験の影響があったと捉えるべきであろう。

この内部評価は 1993 年から実施されるようになり、当初は英語、化学、物理、生物の 4 教科で導入された。次第に全教科に導入されるようになり、PSSC の成績評価は、この内部評価と学年末の筆記試験を含む学外評価によって行われるようになった。表 3 は SPBEA から公表されている各教科の指導書 (Prescription) から評価項目をまとめたものである⁵。これによれば全ての教科で内部評価が入っていることが分かる。またコンピュータとデザイン技術を除いて、試験と内部評価との割合は五分五分か試験の割合が高い。内部評価ではレポートなどの課題もあるが、リサーチやプロジェクトなど主

表 3. PSSC 各教科と評価項目

教科	試験	内部評価
英語	50%	50%：共通課題、リサーチ、作文、文芸、メディア
地理	70%	30%：実習、フィールドワーク
歴史	60%	40%：リサーチプロジェクト、資料活用、調査等課題
経済	60%	40%：リサーチプロジェクト、地域経済調査、発表、データ分析・発表、資料の活用
会計	60%	40%：分析・解説・レポート、帳簿、ケーススタディ、資産記録
数学	70%	30%：リサーチ、PSSC 共通課題、教員課題
化学	60%	40%：共通課題、発展調査プロジェクト、実習レポート他
物理	60%	40%：実験・レポート、スキル課題、記述課題、その他
生物	60%	40%：レポート、調査研究、その他課題、演習テスト
農業	50%	50%：発展調査、リサーチ課題、短期調査、実技
コンピュータ	30%	70%：SPBEA 共通課題、基本技術実演、教員課題
デザイン技術	40%	60%：プロジェクト、デザイン過程、個別プロジェクト
仏語	50%	50%：話す、聴く、リサーチ
サモア語	60%	40%：作文、リサーチ、話す・行動
トンガ語	50%	50%：話す、聴く、リサーチ、文芸

出典) SPBEA による PSSC 各教科指導書 (Prescription) をもとに筆者作成。

体的な学習が取り入れられている。また SPBEA による共通課題だけでなく、教員レベルで独自に課題を出すことが認められている教科もある。これらリサーチやプロジェクト、教員独自の課題については内容、評価計画を事前に SPBEA に提出し、承認を受ける必要があった。その際に助言や指導を受けることもできた (Macpherson, 1993, p9)。

併せて、SPBEA は教員や教育行政官向けの研修プログラムの機会を設け、教材の開発も行った。更に SPBEA からの現場視察も行われ、内部評価が規定や計画どおりに行われているかどうか確認し、授業や内部評価での課題について相談に応じるというものであった。

これらから分かることは、PSSC が単なる生徒への試験としての機能だけでなく、教員が内部評価をするための研修機能も有していたことである。このように PSSC の実施を通じて教員の質の向上が図られたのであろう。そして各国の教員が内部評価を十分に行えるようになったことや、教育担当省が教員研修を行えるようになってきたことによって、次第に SPBEA が PSSC を行う必要性がなくなり、各国が独自で試験を行うことになったと考えられよう。

また各国では PSSC を行っていく上で、Form6 への進学率を高める必要性が生じたと思われる。例えば 1990 年代までサモアでは Form6 レベルである Year13 を設置している中等学校は国立の 3 校のみであり、Year13 へは限られた生徒しか進学できなかった。こうした状況を打破するため、1995 年から 2005 年の教育政策 (Educational Policies 1995-2005) の中で、全ての中等学校で Year13 を設置するよう校舎等の整備が進められた。

また各国では Form7 の設置も進められるようになった。大学入学資格や奨学金を得るためには、Form6 段階の PSSC だけでは不十分だからである。2004 年に SPBEA は、本稿 2 章で述べた SPFSC を設けて、表 1 のとおり実施された。Form7 のないサモアでも、先述のようにサモア国立大学にも大学予科が設けられていたが、1997 年にキャンパスの移転と学部の拡大などに合わせて、プログラムも拡充された⁶。このように PSSC の実施にあわせ、中等教育が整備されてきたのである。

4. 各国による独自試験の導入

こうして各国での中等教育が整備されていく中で、2013 年に PSSC に替わる試験が各国内で作成されることとなった。キリバスは KSSC (Kiribati Senior Secondary Certificate)、サモアは SSLC (Samoa Secondary Leaving Certificate)、ソロモン諸島は SIN6SC (Solomon Islands National Form 6 Secondary Certificate)、ツバルは TSSC (Tuvalu Senior Secondary Certificate)、トンガは TFSC (Tonga Form Six Certificate)、バヌアツは VSSC (Vanuatu Senior Secondary Certificate) として実施するようになる。しかしナウルは独自の試験を開発するのではなく、オーストラリアのクイーンズランド州教育資格 (QCE : Queensland Certificate of Education) が活用されている⁷。

表 4 は各国が独自で行うようになった中等教育修了試験の教科をまとめたものである⁸。この表から分かることは、PSSC にはなかった教科が見られることである。例えば開発学という教科は PSSC にはなかった。またサモアでは音楽や視覚芸術 (Visual Arts)、保健体育の試験が、トンガではトンガ語、トンガ社会や中国語や日本語も行われている。このように PSSC にはなかったが、各国で教えられていた教科の試験も行われるようになった。

また、バヌアツはそれまで英語系の生徒が PSSC を受け、仏語系の生徒はフランス式の資格試験を受験していた。しかし VSSC に切り替えてから、英語系、仏語系とも VSSC としての試験が用意されている。

表 4. PSSC に替わる各国独自の中等教育試験

キリバス KSSC	サモア SSLC	ソロモン諸島 SINF6SC	ツバル TSSC	トンガ TFSC	バヌアツ VSSC	
					仏語系	英語系
英語	英語	英語	英語	英語	仏語	英語
地理	サモア語	地理	地理	トンガ語	地理	仏語
歴史	地理	歴史	歴史	トンガ社会	歴史	地理
経済	歴史	経済	経済	地理	経済	歴史
会計	経済	会計	会計	歴史	公民	会計
開発学	会計	開発学	数学	経済	数学	開発学
数学	農業	数学	化学	会計	化学	数学
化学	開発学	化学	物理	開発学	物理	化学
物理	数学	物理	生物	数学	生命地球科学	物理
生物	化学	生物	農業	化学	情報	生物
コンピュータ	物理	農業	コンピュータ	物理	デザイン技術	農業
デザイン技術	生物	コンピュータ	デザイン技術	農業		コンピュータ
	コンピュータ	デザイン技術		コンピュータ		
	音楽			デザイン技術		
	視覚芸術			音楽 (聴覚)		
	デザイン技術			音楽 (理論)		
	食品繊維技術			視覚芸術		
	保健体育			日本語		
				中国語		

出典) 筆者作成

これらの教科では PSSC で行われていた内部評価を継承することとなっている。バヌアツの VSSC でも試験を含む学外評価と内部評価を表 3 の PSSC と同様の割合で行っている⁹。しかしながらバヌアツ以外では評価の対象となる課題や評価項目、方法などがあまり公開されておらず、また実際に学校でどのように実施されているかは今後の調査が必要である。

一方、筆記試験についてはキリバス、サモア、トンガが過去の試験問題を公開している。その中から比較的ローカルの内容を含むと思われる歴史と地理¹⁰を取り上げてみたい。

歴史では、いずれの国でも世界の近現代史を取り扱っている。また 1 問の必修と 5 問中 2 問の選択問題から成っており、歴史的な事柄を「資料説明」(Resource Interpretation)、「資料評価」(Resource Evaluation)、「史料評価」(Text Evaluation)の観点で解き、また「小論文」(Short Essay)が課されている。こうした試験構成は PSSC においてもほぼ同様であった。つまり PSSC での試験内容をほぼ継承しているのである。しかしトンガでは、例えばトンガのツポウ 1 世についての設問など独自の内容が見られる。

地理では、いずれの国も PSSC 地理で扱われていた「危険」(Hazard)、「資源とその利用」(Resource-

es and their uses)、「人口」(Population)、「都市化」(Urbanization)、「観光」(Tourism)を扱っているが、サモアでは「環境問題」(Environmental issues)を加えている。これらのうち「観光」についてはキリバスとトンガではそれぞれの国の地図と観光問題についての設問が見られる。

こうした設問の構成や内容から、各国の試験は基本的に PSSC を継承しながら、その中で少しずつ各国の独自性を出そうとしていることが窺える。内部評価についての状況や他の国の筆記試験に関する情報が不足している現段階では、何かを論じることはできないが、各国が全く別々の試験を開発しているわけではないということは言える。

おわりに

このように PSSC の導入の背景、PSSC 実施後の改訂、PSSC に替わる各国の試験について見てきた。これらを本稿の趣旨であったローカル化という視点で考察していきたい。

まず、PSSC の導入には、ニュージーランドの Form6 での NZUE が廃止されたという要因があった。必要に迫られたとはいえ、結果的に各国はニュージーランドの試験から脱却したといえるのではないだろうか。それまで各国は NZUE に依存していたことを考えると、地域共通の試験として地域の実情に沿った試験にすることが可能になったからである。

次に PSSC において内部評価が導入されたことにより、各国の中等教育の質の向上に繋がった。SPBEA が単に地域共通の筆記試験を作成し、各国において実施されたというだけでなく、PSSC の内部評価を進めるために生徒が主体的に学ぶような課題が設定され、そうした課題を評価するための研修が実施されたからである。確かに内部評価はニュージーランドの Form6 で行われていたものであり、その影響が全くなかったとは考えにくい。その意味では、ニュージーランドの試験内容から脱却していないと捉えることもできる。しかしながら、ニュージーランドの Form6 資格と同等の試験を実施できるようになったことは、各国の中等教育の国際的通用性を高めることに繋がったとはいえよう。

また、2013 年以降の各国の試験では、国によって独自の教科が設けられたりしているが、全体としては PSSC と同様の試験の構成や内容が見られた。これが意味することは、地域共通試験からの脱却というよりも、基本的には PSSC の継承なのであろう。しかし歴史や地理において、トンガなど一部の国で独自性を反映した設問もあることから、ローカルな内容を扱うことも可能になっている。

これらから、PSSC の廃止によって国際的通用性という点で各国が自立しつつも、PSSC を踏襲した上で、ローカル化が図られていると考えることができよう。

今後の課題としては、内部評価の基準や筆記試験の内容から PSSC との連続性と独自性を更に検証を進めなければならない。また実際の中等教育への影響として、教員や学生の意識に影響を及ぼしているのかどうかについても明らかにしていかなければならない。

本研究は科学研究費補助金（基盤研究（C）（一般）課題番号 17K04682）の研究成果の一部である。

参考文献

- Bray, M. (1998) *Regional Examinations Councils and Geopolitical Change: Commonality, Diversity, and Lessons from Experience*, International Journal of Educational Development, Vol. 18, No. 6, pp.473-486.
- Crossley, M. and Holmes, K. (1999) *Educational Development in the Small States of the Commonwealth: Retrospect and*

- Prospect*, Commonwealth Secretariat, London.
- Livingstone, I. D. (1985) *Withdrawal of the New Zealand university entrance and implications for the South Pacific*, Directions: Journal of Educational Studies no.15, vol.7, no.2, pp. 82-89.
- Macpherson, C. (1993) *Curriculum change in the Pacific Senior Secondary Certificate*, Pacific Curriculum Network vol.2, no.1, pp. 9-11.
- Pongi V. (2004) *Making the Switch from "Assessment for Ranking" Towards 'Assessment for Learning' ; The Challenges Facing The Small Island States of the Pacific*, A Paper Presented to the Third Conference of the Association of Commonwealth Examinations and Accreditation Bodies (ACEAB) held in Nadi, Fiji from 8th-12th March 2004.
- Ree, T. and Singh, G. (1998) South Pacific Board for Educational Assessment. M. Bray and L. Steward (eds.) *Examination Systems in Small States: Comparative Perspectives on Policies, Models and Operations*, pp.162-180, The Commonwealth Secretariat, London.

註

- 1 ツバルではフィジーの試験を用いていたが、2010年頃ツバル独自の試験（TJC）に替えた。
- 2 面積は外務省（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>）、人口は世界銀行（<http://data.worldbank.org/>）。生徒数は Kiribati Ministry of Education (2012) *Digest of Education Statistics 2012*. Government of Tonga (2013) *Report of the Ministry of Education and Training for 2013*. Nauru Department of Education and Training (2008) *Footpath II Education and Training Strategic Plan 2008-2013*. Samoa Ministry of Education, Sports and Culture (2012) *Education Statistical Digest 2012*. Tuvalu Ministry of Education, Youth & Sports (2012) *Education Statistical Report 2012*. Vanuatu Ministry of Education (2013) *Annual Statistical Digest 2012*. ソロモン諸島は <http://www.mehrd.gov.sb/documents> にある PAF Data を参照。ウェブサイトはいずれも 2017 年 11 月 30 日確認。
- 3 1947年に英・米・仏・豪・蘭とニュージーランドによって設立。現在オセアニア 16カ国・8地域と米、仏の計 26カ国・地域が加盟。（<http://www.spc.int/>）2017年11月30日確認。
- 4 但し、Livingstone (1985, p87)によれば 5,500名のうちフィジーの受験者が 4,500名であった。
- 5 SPBEA から出された PSSC 各教科 Prescription を参照。Accounting (2003), Agriculture (2004), Biology (2002), Chemistry (1999), Computer Studies (2007), Design Technology (2008), Economics (2003), English (2007), French (2000), gagana Samoa (2008), Geography (2006), History (2001), Mathematics (2008), Physics (2001), tala 'o Tonga (2008)。
- 6 サモア国立大学 HP（<http://www.nus.ac.ws>）2017年11月30日確認。
- 7 JICA Pacific-Leads: Country Information, Nauru (https://www.jica.go.jp/regions/oceania/ku57pq00001qsemy-att/education_Nauru.pdf) 及び Australia DFAT, Nauru Partnership Priority Outcome 2: Improved Education (<http://dfat.gov.au/about-us/publications/Pages/nauru-partnership-priority-outcome-2-improved-education.aspx>) 添付資料（いずれも 2017 年 11 月 30 日確認）を参考にした筆者の見解。
- 8 キリバス教育省（<http://www.moe.gov.ki/home/>）、サモア教育スポーツ文化省（<http://www.mesc.gov.ws/>）、ソロモン諸島教育人的資源省（<http://www.mehrd.gov.sb/>）、トンガ教育訓練省（<http://www.edu.gov.to/>）、バヌアツ教育訓練省（<https://moet.gov.vu/>）より試験時間割や教科一覧を参照（いずれも 2017 年 11 月 30 日確認）。ツバルは前掲（2012）を参照。
- 9 Vanuatu Ministry of Education and Training (2014) *2013 Annual Statistical Digest*.
- 10 Samoa Secondary School Leaving Certificate History 2015 Question and Answer Booklet. Samoa Secondary School Leaving Certificate Geography 2015 Question and Answer Booklet. Kiribati Senior Secondary Certificate History 2015 Question and Answer Booklet. Kiribati Senior Secondary Certificate Geography 2015 Question and Answer Booklet. Tonga Form Six Certificate 2014 History Question and Answer Booklet. Tonga Form Six Certificate 2014 Geography Question and Answer Booklet.

Changing the Secondary Education Certificate Examination System in Oceania

– A Study Focusing on the Abolishment of PSSC –

Hisaharu OKUDA

Abstract

This article aims to explain the contexts and backgrounds in a turning point of the secondary education certificate system in Oceania, that is, the abolishment of the Pacific Senior Secondary Certificate (PSSC) examination in 2013, which had been implemented in common in Kiribati, Nauru, Samoa, Solomon Islands, Tuvalu, Tonga, and Vanuatu. This study tries to analyze what factor contributed to this and how the system has been transformed.

The background will be understood in terms of following the three points: a breakaway from dependence on the New Zealand University Entrance (NZUE), the PSSC quality improvement, and the replacement with country-driven examination.

Firstly, the New Zealand decision to abolish the NZUE of Form 6 in 1985 affected Pacific island countries. As a result, those students could not sit for examination to enter into universities in New Zealand and other countries. This led to developing the PSSC, a uniform examination launched by SPBEA, a regional body in the field of education. Secondly, the PSSC was taken at Form 6 (Year 12) in those countries. SPBEA began to improve the quality of examination and to introduce Internal Assessment into the PSSC. SPBEA also provided training programs for teachers and administrators to effectively implement the PSSC. At the same period, each country tried to improve the secondary education system. Following this historical stream, these countries replaced the PSSC with their own examinations in 2013. This study analyzes newly introduced examination subjects in each country and contents of paper examinations and finds some continuity from the PSSC and originalities in each country. Finally, this study tries to conclude that the abolishment of the PSSC does not mean a breakaway from the regionally unified examination, but an educational inheritance from the PSSC on which each country seeks to localize the secondary education.